

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野Ⅱ	母性看護学 援助論演習	1	30	2 年次	10 月	高松三穂子
授業概要 母性看護は、女性とその子ども・家族を対象とし、対象者の健康（とくにリプロダクティブヘルス）の水準を維持・増進あるいは回復させるため、さらには疾病を予防するために健康生活を整える援助過程である。また、母性看護における看護過程を主要な看護技術と考え、その展開は重要である。そのため、ここでは、看護過程の展開方法と看護技術の特徴的なものについて学習する。						
到達目標 1. 母性看護における看護過程の展開方法を理解する 2. 母性看護に用いられるおもな看護技術とその特徴、およびそれらの関連性を理解する						
使用教材 1. テキスト ①系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論：医学書院 ②系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論：医学書院 ③看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術；2015：メヂカルフレンド社 2. 参考文献等 ①佐世正勝／石村由利子編；ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図，第2版：医学書院 ②写真でわかる母性看護技術アドバンス：インターメディカ						
評価 レポート課題（看護過程展開・保健指導案） 授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
10 時間・5 回	1.母性看護学における看護過程展開 1)マタニティサイクルにおける看護の特徴 2.ウェルネス看護診断の考え方 1)ウェルネスとは 2)ウェルネス看護診断とは 3.ウェルネス看護診断の展開 1)母性看護における対処把握（情報収集・アセスメント） 2)看護上の問題点の把握 3)看護目標の設定 4)看護計画の立案 5)看護実践・評価					講義 演習
10 時間・5 回	4.情報収集・アセスメント技術 1)問診 2)フィジカルアセスメント（主なもの） (1)妊婦 視診：下肢の観察（浮腫の有無など）、乳房・乳頭の形態 触診：レオポルド触診 聴診：胎児心音の聴取					実技

